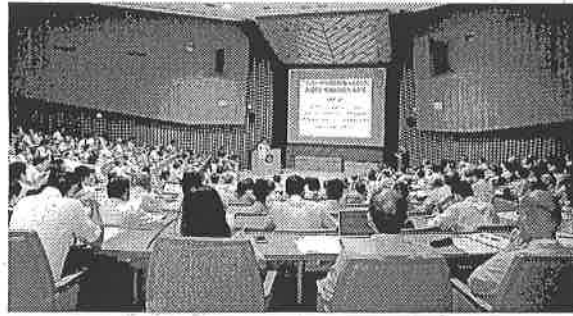


豪雨、台風、地震で緊急報告会

自然災害に備え知見共有

と体
議携
会連
術術
学学
日本
日防



日本学術会議（山極壽一会長）と、防災に関わる56学会

のネットワーク「防災学術連携体」（代表幹事・米田雅子）日本学術会議防災減災学術連携委員長、古谷誠章（日本建築学会会長）は10日、東京都港区の日本学術会議講堂で公開シンポジウム「西日本豪雨災害の緊急報告会」を開いた。写真。西日本豪雨や台風21号、北海道胆振東部地震に関する被害の状況などが報告され、猛威をふるった自然災害に備えるための知見を共有した。

冒頭、米田代表幹事は、「報告会の準備をしている最中に台風21号、北海道での地震が発生したので、急ぎよせセッション6を追加し、21号と地震の報告を加えた。西日本豪雨では広範囲に河川の氾濫と土砂災害が起きた。また把握されていない土砂崩れなどもある。関空の閉鎖、北海道全土の停電など、これまでと次元が違つ被害が発生しており、これからの防災対策を抜本的に見直す時期に来ている」とあいさつした。

続いて来賓あいさつに立った、佐谷説子（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官が、「西日本豪雨では早期に政策パッケージを取りまとめ、北海道の地震では発災後即座に

関係会議を設置した。電力供給と災害の関係性など、複合災害の課題に引き続き政府として対応していきたい」と述べた。

古谷代表幹事は、「毎日のように自然災害が繰り返される。重複災害への備えは道半ばだと思つ。さまざまな学術分野の報告を共有することが、今後の被害の未然防止に役立つことを祈念している」とあいさつした。

報告会では、▽気象の変化、地形・地質などの状況▽洪水・土砂災害のメカニズム▽情報伝達・避難・救援と復旧・復興▽西日本豪雨から学ぶ教訓と今後の対策▽近年の豪雨災害から学ぶ教訓と今後の対策▽台風21号および北海道胆振東部地震——の6セッションごとに、各学会と日本学術会議が被害状況や対策などを報告した。